



3学期が始まりました。いよいよ本年度最後の学期となりました。

おもや 思い遣ることしかできないかもしれないけれど…

令和6年が始まり、正月気分浸っていた1日。能登半島で未曾有の大地震が起き、美しい日本海の光景が一変しているテレビ画面を見て、申し訳ないのですが、現実感を失ってしまいました。震度7の大地震。何よりもお亡くなりになられた方々のご冥福と、今なお被災されている方々の一刻も早い支援を願わずにはられません。

そして、どうしても起きてしまうディレンマに、胸の痛みを感じざるを得ない日々を過ごしました。何かできないものか、と。

しかし、私たちにできることは、現実問題ほとんどありません。私は、恥ずかしながら「緊急支援の募金」くらいしか思いつかず、それも微々たる金額の募金を、インターネットを介してお送りしたくらいでした。

それにしても、支援物資がなかなか届かない、温かい食べ物をいただいていたほしいと願ってもかなわない。もちろん、多くの方々（特に自衛隊の方々など）が、各所で全力を挙げ取り組んでいらっしゃることは承知しているつもりです。そして、その方々のご苦勞は、私たちからすると計り知れないものでしょう。頭が下がる思いしかありません。

最中、インターネットでは残念な情報も流れてきています。フェイクニュースや火事場泥棒など、私たちの憤りを嘲笑うような出来事が一方で起こっている。これは、だめなことなんだと、大きな声で言いたい。

熊本地震を経験した私たちは、被災地では心折られる余震が続いていることも、実は知っています。地震は直接的な被害だけではなく、間接的にそして徐々に体だけではなく心も折ってくることを知っています。そして、被災したその時、他県の皆さんからの声（手紙やビデオレター、送られてきたぞうきん一つ一つに書かれた応援メッセージなど）が、大きな心のよりどころになる（なった）ことも知っています。

だから、何もできないかもしれないけど、思いを遣ることしかできないかもしれないけれど、その思いは形にしたり表現したりする場が少ないかもしれないけれど、できることを何か一つでもやりたいと思うのです。

楡木小学校から能登半島まではとても遠いだけでも、被災された方々に思いを遣るその想像力を、楡木っ子にもってほしい。そう思います。その思いで腹が満たされるわけではないかもしれませんが、一人一人の小さな思いが重なり、物理的な距離を超えて、温かさは伝わるのではないかと、信じています。

そして、何かできることはないかと、みんなで共有し、（時間はないのですが）知恵を出し合うなど、いつもみんなで被災された方々のことを考えている人に私はなりたいと、強く思った次第です。